



わかば保育園

*** 評価結果 ***

2014 年 3 月 公表

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関第 26 号 横浜市福祉サービス第三者評価指定機関第 17 号

評価実施機関：特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号

TEL045-228-9117・FAX045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



実施概要

事業所名	わかば保育園		
報告書作成日	2014 年 3 月 5 日	(評価に要した期間 5 か月間)	
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター		

*評価方法

1 . 自己評価	【実施期間：2013 年 10 月 1 日～12 月 3 日】 ・常勤・非常勤に職員会議で趣旨説明し各個人に記入してもらった。 ・それを基に、クラスごとの会議に園長、主任、フリー保育士が入り、意見交換をしながら 1 項目ずつ確認・合意した。また、出てきた課題を抜き出し、全体でまとめた。
2 . 利用者家族アンケート調査	【実施期間：2013 年 11 月 1 日～11 月 15 日】 配付：全園児の保護者（100 家族）に対して、園から手渡しした。 回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3 . 訪問実地調査	【実施日：2014 年 1 月 22 日、1 月 24 日】 ■ 第 1 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：書類調査～事業者面接調査（園長、主任） ■ 第 2 日目 午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。 午後：職員ヒアリング（クラスリーダー7 名、看護師、栄養士、非常勤職員、フリー保育士）～事業者面接調査（園長、主任）
4 . 利用者本人調査	【実施日：2014 年 1 月 22 日、1 月 24 日】 訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。 乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。



評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

わかば保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン舞岡駅から徒歩 8 分のところにあります。園までの道に田畑もあり、園の前は道路を隔てて舞岡ふるさと村虹の家があり、園の後ろは市民の森(舞岡ふるさとの森)が広がり、自然環境に恵まれた立地となっています。

運営法人は社会福祉法人「あらぐさ会」で、1965 年(昭和 40 年)に園の前身である「乳児の家わかば」を開設し、その後「わかば乳児共同保育所」に移行しました。1979 年(昭和 54 年)法人を設立し、現在地に「わかば保育園」を開園しました。現在は同一法人が「新杉田のびのび保育園」を姉妹園として運営しています。

園舎は 2 階建てで内部は天井が高く木の温もりがある施設となっています。1 階には 5 つの保育室と大小のホール、食堂、調理室、事務室、保健室等があります。2 階に 2 つの保育室や休憩室等があり、新園舎(別棟)に炉を切った和室や多目的ホールがあります。1 階のバルコニーは広い園庭に面しています。

定員は 120 名です。長時間保育、延長保育を実施していて、開園時間は平日は 7 時 15 分～19 時 15 分で、土曜日は 7 時 15 分～18 時 15 分です。

保育理念は 私たちは、憲法と児童福祉法に基づき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせて、より良い保育を進めていきます。 私たちは、子どもたちがのびのびと生活し、登園が待ち遠しくなるような魅力ある保育園づくりをめざします。 私たちは、お父さん、お母さんが安心して働けるように支援し、地域の子育てに貢献します。としていて、理念を基に保育目標を「健康な子ども」

「心ゆたかな子ども」「仲間を大切にし、自分も大切にする子ども」「仲間と一緒に考え、力を合わせる子ども」「自分のことは、自分でできる子ども」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちはのびのびと楽しく過ごしながら、メリハリのある生活を送っています

子どもたちは登園すると広い園庭で好きな遊びを十分しています。訪問日はクラス別に「泥だんご作り」をしているグループが 4 組あり、年下の子どもには保育士が固めるのを手伝ったり、年上の子どもは、硬く固めたピカピカの泥だんごを大切に持っていたりしました。保育士が回す長縄を跳んだり、複合遊具や滑り台、タイヤなどで遊んだりしている子どももいます。低年齢児クラスが部屋に入った後は、ドッジボールやサッカーをしている 5 歳児もいますが、男性保育士と一緒に遊び、子どもたちはボールの扱いが巧みです。さらに園外にも恵まれた自然環境が広がり、別の日に 5 歳児は市民の森に散歩に出かけました。自分たちで作った散歩マップを持って道を決め、山道を元気よく「さんぽ」を歌いながら歩き、斜面で転げ回って遊んだり、途中の沼のそばで地域の高齢者から「河童ともしぞう」の話を聞いたりしました。

室内での活動にも自由な発想が尊重されています。例えば、室内で空き箱などを使い鬼のお面を作っていた 4 歳児の子どもたちが、全く自由な発想で大きさも色も違う鬼を作るのを、保育士は、目をくり抜くなどむずかしいところだけ手助けして、見守っていました。朝の会も給食始まりの挨拶も一斉にはせず、子どもたちは待たされることはありません。

一方、集団活動でも、ホールで、0、1、2 歳児がリトミック、3 歳児が体育遊び、5 歳児が和太鼓の練習等をしていましたが、保育士はどの年齢の子どもにも無理強いせず、子どもたちが楽しく力を出せるように声かけを工夫して支援しています。そのような集団活動では、年齢を重ねるにつれ子どもたちのやる気にあふれた成長が見られ、5 歳児の和太鼓のばちさばきはリズムよく力強い音を響かせていました。

子どもたちは、元気よく遊んだ後は給食をよく食べ、園舎が静まりかえるほどぐっすり午睡をしています。四季を通して恵まれた環境の下、メリハリのある毎日を過ごしている子どもたちです。

●職員は自発的に研さんを重ね、協力して「よりよい保育」をめざしています

職員はそれぞれの仕事へのモチベーションが高く、園外の研修にもよく出かけますが、園内で自主的な研修会として、書籍の読み合わせをしたり、水彩画や音楽技術を学ぶ学習会を開いたりしています。職員会議を始め各種会合は熱心に行われ、日常の保育についても、保育士同士話し合ったり主任や園長等に助言を求めたりすることもよく行われています。

栄養士は研究熱心で、子どもたちが苦手な食材をおいしく食べることができるよう、給食の献立を工夫したり、保育士とともに食育を進め、季節に合わせてよもぎ団子、お月見団子、クリスマスケーキ、まゆ玉作りなどのクッキングの計画をしたりして、子どもたちと実践しています。

看護師は調査時には、入職して間もないとのことでしたが、毎朝、保育室を回り、すべての子どもの連絡ノートを読み、子どもたちの健康状態をチェックし、今後は職員向け研修会等も行いたいとのことでした。

園長、主任を始めヒアリングをしたどの職員も自信を持ち、子どもや仕事が大好きな様子で、さらにより保育をしたいという思いが伝わってきました。

●保護者との連絡を密にし、よいパートナーシップを持っています

園は、保護者との連携を大切にしていって、連絡帳は0 歳児から5 歳児まで、すべての子どもが同じものを持ち、きめ細かい記入をしています。また、ホワイトボードや写真入りの壁新聞で日々の保育の様子を知らせています。さらに、「わかばっ子」(園だより)、「各クラスだより」、「給食室よりこんにちは」(給食だより)、「ほけんだより」など家庭と保育園をつなぐ手紙にも力を入れ、時には何ページにもなります。

また、保護者の組織する保護者会も活発に活動をしていて、園と保護者は協力し、「わかばまつり」などの行事を共催するなど、子どもたちの楽しい保育園生活のためのよいパートナーシップを持っています。

そのことは、保護者アンケートの「お子さんに関する重要な情報の連絡体制」や「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の項目が100%の満足度であることにも表れています。

2. 工夫・改善が望まれる点

●職員の目標設定と達成度評価システムの策定が期待されます

職員は指導計画や日誌等の中で、日常の実践についての振り返りをしたり、形式的ではない話し合いを重視したりして、業務改善に取り組んでいます。

今後はさらに、個々の職員に期待される役割に必要な能力や知識を、どのように習得するか年間目標を年度当初に設定し、決められた書式に記入し、個人で振り返りを行うだけでなく、年度末には達成度を園長や主任とともに評価し、次年度の目標につなげていくようなシステムの策定が期待されます。

- さらなる安全・防犯対策の進展が望まれます

園の周辺は里山が広がり、自然環境に恵まれています。しかし、通園路への土砂崩れなどの心配もあり、園は、最近新たな避難経路を作りました。また、門から玄関が見えず、長いスロープの先に園舎があります。現在、新たな不審者侵入防止策を検討していますが、アンケートでも不安を感じている保護者もやや多いので、より一層の安全・防犯対策に取り組むことが望まれます。



分類別評価結果



「ひょう太マーク」は、各評価分類の水準を表しています。

3 つ：高い水準にある 2 つ：一定の水準にある 1 つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
I－1 保育方針の共通理解と 保育課程等の作成 	・ 保育の理念は「私たちは、憲法と児童福祉法に基づき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせて、より良い保育を進めていきます」「私たちは、子どもたちがのびのびと生活し、登園が待ち遠しくなるような魅力ある保育園づくりをめざします」「私たちは、お父さん、お母さんが安心して働けるように支援し、地域の子育てに貢献します」と、利用者本人を尊重したものとなっています。理念は全職員に配布している「保育課程」に記載され、園の玄関にも掲示し、毎年度末の全職員参加の一日研修で園長が説明して理解を深めています。 ・ 保育課程は、保育理念・保育目標に基づき、一人ひとりの子どもの発達過程を踏まえるなど、子どもの最善の利益を第一義にしています。 ・ 日常の乳児の態度・表情から子どもの意思を汲み取り、幼児には考えさせたり意見を聞いたりして、子どもの意見を活かした柔軟性のある指導計画を作成しています。
I－2 子どもの発達や状況に 応じた適切な援助の実施 	・ 入園説明会は、事前に児童票・児童健康表等を送付し、記入してもらった上で実施し、保護者に面接して話をよく聞いています。当日、別の場所で子どもだけを保育し、子どもの様子をよく観察して記録し、園が配慮することを把握しています。 ・ 短縮保育（ならし保育）については、入園説明会で説明し、保護者の理解を得るようにしています。子どもとともに保護者にも園に慣れてもらうように設定していますが、保護者の状況により日数には配慮しています。保護者への連絡はノートで丁寧にしています。家庭からも記入されていて互いに理解を深めています。 ・ 在園児には、前年度の担任が1人は持ち上がるようにしています。また、入園式だけでなく進級を祝う会も開催し、進級をみんなで喜ぶように配慮しています。 ・ 月間指導計画や個別指導計画は子どもの発達や状況に応じて作成し、評価や見直しをして、次の計画を作成しています。評価、改訂にあたっては、クラスミーティングに主任・フリー保育士も加わり、保護者の意向も反映して作成した上で、職員が共有してい

	ます。
- 3 快適な施設環境の確保 	・ 園内の清掃はよく行われています。保育士とともに5歳児は、毎日、保育室やホールの雑巾がけから、靴箱、棚、ゴミ捨てなど当番を決めて、掃除をしています。玄関から門までの通園路などは、用務の担当者が毎日掃除をしています。窓の開閉等により通風・換気に留意していて、施設内の温度や湿度についてもこまめに調整しています。園舎は園庭に面して陽光が十分取り入れられるようになっていて、日差しを受けて、寒中でも薄着で過ごしている子どもが目立ちました。 ・ 0歳児保育室に沐浴設備、温水シャワーが備え付けられ、いつでも使えるようになっていて、使用した時清掃するだけでなく、月1回設備の点検をしています。 ・ 0、1、2歳児を月齢により3クラスではなく4クラスに分けていて、少人数で発達に合った保育ができるようにしています。保育室内もマット、パーテーションやコーナーを利用して、小集団で過ごせるようにしています。1歳以上の子どもはホールや食堂で食事し、午睡は各部屋に布団を敷いて機能別になっています。 ・ 園舎の中央にある大ホール・小ホールは異年齢児の交流の場となっていて、異年齢クラスでリトミックや給食が実施されています。ほかに3～5歳で遊ぶ「ヤッターの時間」など、異年齢交流の時間があり、園庭でも小さい子どもに遊びを教えている子どももいます。
- 4 一人一人の子どもに 個別に対応する努力 	・ 0、1、2歳児には子どもの生育歴や心身の発達を考慮して個別指導計画を作成しています。3歳以上の幼児についても、気になる子どもには、個別指導計画を作成しています。個別指導計画は、保護者に説明し、同意を得ています。 ・ 子どもや家庭の個別の状況・要望は児童票、児童健康票、個別指導計画等に記録しています。入園後の子どもの成長発達記録も児童票に記録していて、事務室のロッカーに保管して、職員は共有しています。 ・ 重要な申し送り事項は必ず記録され、進級時に担任が次の担任に伝達するだけでなく、職員会議でも報告しています。保育所児童保育要録は、5歳児クラス担任が記入し、園長・主任が確認し、小学校に送付しています。

- 5

保育上、特に配慮を要する
子どもへの取り組み



- ・ 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があり、クラスミーティングや職員会議で話し合い、個別の記録に反映させています。戸塚地域療育センターとの連携を図り、最新の情報を得たり、研修報告から学んだりしたことを共有して保育に活かしています。
- ・ 保育室のある園舎はエレベーターなどの設置はありませんが、障がい児については、その障がいに合わせて支援しています。例えば、車椅子の子どもには、臨時にスロープを作り、耳の不自由な子どもには、職員が手話を覚えるなどで対応しています。
- ・ 戸塚地域療育センターと連絡を密にし、巡回に来てもらっています。障がい児保育について、職員会議で話し合ったり、研修に参加したりした場合は、報告を職員で共有して、全職員で保育に当たる体制ができています。
- ・ 毎年、年度の初めに虐待の定義や最近の情報を職員に周知していて、万一、虐待が疑われる場合があれば、確認して明白になった時は、児童相談所等に通告・相談する体制ができています。
- ・ アレルギー疾患のある子どもについては、かかりつけ医の指示書を受け、適切な対応をしています。食物アレルギーについては、医師の指示書をもとに代替食・除去食を提供していて、毎月、保護者、担任、栄養士で確認し、個別トレイ、名前シート、別食器で最初に提供するようにしています。
- ・ 文化や生活習慣が違う子どもについては、違いを認め尊重し、子どもたちにも言葉の違いや食事などの違いを知らせ、自然に認めあえるように配慮しています。意思疎通が困難な場合は、身振りで伝えたり、手紙にかなをふったりするなど、必要な配慮をしています。

- 6

苦情解決体制



- ・ 保護者からの要望や苦情を受け付ける担当者は、園長・主任となっていて、第三者委員の氏名とともに入園説明会で、保護者に知らせています。
- ・ 保護者からの要望を出しやすいように日ごろから、コミュニケーションを大切にしている、保護者の意見を聞く姿勢は十分あり、行事等のアンケートも取っています。しかし、意見箱は保護者会が設置していて、園としては設置せず、保護者会の意見箱に寄せられた意見を、共有して共に解決策を考えています。園のみに知らせたい保護者もあることを想定して園の意見箱を設置することが望まれます。
- ・ 園に対する要望、相談、苦情と解決策は、記録して職員会議等で職員に周知して、今後の解決に活かしています。園独自で解決困難な

場合があれば、区に相談することにしてはいますが、外部の権利擁護機関や相談機関を保護者に紹介することも望まれます。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
- 1 保育内容[遊び] 	・ 子どもの発達や興味にあわせ、年齢に応じて手作りおもちゃを用意したり、保育室のレイアウトを変えたりして環境に配慮しています。 ・ 好きなことを夢中になって遊んでいる時は子どもの主張を聞いて次に出来るようにしたり、そのまま続けられるように配慮したりと柔軟に対応しています。 ・ 子どもの考えや発言を丁寧に受け止め、子どもたちみんなで考えるように対応しています。例えば散歩途中で地図に興味を持ったことから、地図作りに発展し、「9人兄弟の木」や「はっぱのトンネル」などの目印を自分たちで考え地図を製作しました。 ・ 年齢に応じて約束事やルールを守ることを覚え、ルールのある遊びを楽しんでいます。自分たちでもルールを作って、かくれんぼやリレー競走など遊んでいます。 ・ 地域の方とは栽培で相談したり、お祭りで協力してもらったりと日常的に交流があり、散歩途中でも農作物や花をもらい挨拶を交わしています。訪問日の散歩中に、子どもたちは地域の人から民話を聞くことが出来ました。 ・ 自然に恵まれた地域にあり、園の散歩マップにも花畑や木の実のある場所、ザリガニや鯉のいる場所などが記されていて、様々に自然に触れる機会が設けられています。また、梅もぎや小学校めぐりなど園外活動をして社会体験をしています。 ・ 保育士は水彩画や音楽の学習会を開き熱心に研修しています。0歳児からリトミックを実施してピアノにあわせて体を動かし、手遊びなど年齢や発達に応じて表現できるよう配慮しています。 ・ 保育のための音楽研究会という職員の自主サークルがあり、保育士は様々な場面で音楽を取り入れて保育活動をしています。子どもたちも保育士がペープサートで歌うと一緒に歌う場面が見られ、散歩しながらも自然と歌が出てきます。 ・ 異年齢年間計画を立て日常的に触れ合っています。週1回の“ヤッターの日（異年齢交流の日）”を設けて子ども同士が関わりを持てるよう配慮しています。夏に4、5歳児はお泊り保育を一緒に経験します。園庭では日常的に異年齢の子どもたちが交わって遊んでいる様子が見られます。 ・ 職員は子どもたちの一人一人の姿を受け止めていく事を職員間で話し合い、保護者と連携をはかり、子どもを知り認めることで信頼関係を築いています。

	・ 年齢に応じて散歩コースを選び、道なき道や畦道を歩く等楽しんでいます。園庭では土、水、泥の感触を楽しみダイナミックに遊んでいます。 ・ 乳幼児期からリズム遊びを取り入れています。また園内は長い廊下やゆるやかな階段があり、這い這いや歩くことで自然に体づくりをしています。ホールでは巧技台を使って遊びの中で運動能力を高めています。5歳児は大縄跳びや竹馬、球技（ドッジボール、サッカー）など巧みにこなしています。
- 1 保育内容[生活] 	・ 保育士は子ども一人一人の様子を見ながら配膳しています。嫌いなものは興味をひくように話しかけ、一口は食べるように促しますが強制はしていません。 ・ 離乳食は子どものペースにあわせ、声掛けしながらかめているか、飲み込めているか確認して進めています。 ・ 栄養士は、うどん、三つ葉、菜の花等季節感のある食材を使い、彩りに気を配り、七草、よもぎ団子、流しそうめん、月見団子など子どもたちに季節の食材に触れるよう配慮しています。 ・ 食器はあたたかみのある磁気食器を使用し、食器の重みや割れる事を伝えています。0歳児は持ちやすい取っ手のついたコップを使用し、乳児の食器は幼児の食器に比べ小さく軽いものを使用しています。箸の使用は概ね3歳後半からですが、一斉でなくスプーン、フォーク併用もしています。 ・ 栄養士は保育士の意見や子どもの様子から好き嫌いを把握して調理方法を工夫しています。例えば食べにくいレバーをピザにして食べやすく工夫をしています。 ・ 栄養士は子どもたちの食事の様子をほぼ毎日みています。時には離乳食の介助に入り、食材や切り方など保護者と連携を取りながら進めています。 ・ 「給食室よりこんにちは（給食だより）」では、子どもとアレルギー、疲れをとる食事と生活リズムなど食に関するテーマで情報提供をしたり、季節の献立、子どもに好評の献立、保護者から要望のあった“オープンを使わないおやつ”のレシピ等を掲載しています。 ・ 保護者は年に1回の給食試食会の他、保育参加や誕生日会に給食を食べる機会があります。また、0歳児クラスの保護者は4月に離乳食を試食して、固さや味付けなど離乳食作りの参考にしてもらっています。 ・ 眠れない子どもには身体をさする、添い寝をするなど、それぞれの子どもに応じて対応しています。午睡は体を休める事と考え、眠くない子どもは他の子どもの迷惑にならないよう別の場所で過ごす

	配慮をしています。 ・ 当園はリースの布オムツを使用しています。交換回数は多くなりますが、スキンシップや声掛け、会話を通して子どもとの関わりや皮膚の状態を観察する機会が多くなると考え、一人一人に対応しています。トイレトレーニングはせかすことなく一人一人の発達に応じて個別に対応しています。
- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[健康管理] 	・ 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、乳児は「生活記録表」を基に朝の視診で健康状態を把握しています。看護師は毎日クラスを回り、子どもの様子、連絡帳をチェックして一人一人の健康状態を保健日誌に記録しています。 ・ 食後の歯磨き指導は保育士が劇をして子どもたちにわかりやすく伝え、歯科健診の後、歯科委託医や歯科衛生士により歯磨き指導を受けています。 ・ 日常的に委託医から助言をもらい連携を図っています。健康診断時には保護者から質問や相談を聞き結果や助言を報告しています ・ 入園案内の健康・保健の項目に登園停止基準や保育中の感染症の疑いが生じた場合の対応が明記され保護者に周知しています。 ・ 保育中に発症した時はマニュアルにのっとり、保護者に知らせ、保護者が来るまで、医務室で看護師が見守っています。
- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[衛生管理] 	・ 衛生管理に関するマニュアルには保育室など場所毎の清掃・消毒方法や玩具・遊具などの消毒方法・下痢嘔吐時対応、手指消毒、プール管理方法等が記載されています。 ・ 看護師を中心に関連機関から指導や助言があった時は速やかに職員会議等で話し合い、見直しをしてマニュアルに反映させています。 ・ 職員は常にマニュアルの内容を会議や職員ノートで確認しています。 ・ マニュアルに基づき清掃は実施され、園舎は清潔で適切な状態が保たれています。
- 2 健康管理・衛生管理・ 安全管理[安全管理] 	・ 東日本大震災が起きた時にマニュアルを再検討し、安全管理に関するマニュアルに「防災訓練マニュアル」を作成して付け加えました。 ・ マニュアルは予想される事故防止や災害時役割分担表、心構え、通報の仕方、避難用具、防災倉庫備品などが記載され、職員は周知しています。 ・ 毎月防災避難訓練を実施しています。近隣の避難場所までの時間や危険個所を確認し、第一避難経路だけでなく第二避難経路を確保しました。「かんたんメール」や「ツイッター」を使って保護者に訓練の報告をしています。

	・ 子どものケガについては軽傷であっても必ず連絡帳や口頭で保護者に伝えて記録しています。小さなケガは生活記録表や保育日誌に記録しています。 ・ 職員会議で事故の発生時間、場所、状況などを詳しく検証し、再発防止策を検討して改善策が実行出来るよう職員は努めています。
- 3 人権の尊重 	・ 憲法と児童福祉法を保育理念としており、子どもの人格を尊重し、子どもの意思を聞こうとする姿勢が見られます。子どもをせかしたり、強制したりせず見守る姿勢があり、子どもの興味のもとを妨げることなく、子どもの行動を止めないよう保育士は配慮しています。 ・ 日常的に保育実践の中で保育士は常に話し合い配慮する事を心がけ、子どもの自尊心を傷つけるような保育を行ってはならないことを職員は周知しています。 ・ 本棚やおもちゃ箱の脇のスペースやパーテーションで区切られたコーナー、保育士からは目のとどく物入れの下の空間などに、他からの視線を気にせずに過ごせる場所があります。 ・ 個人情報保護とそれに関する法律を記載した「個人情報取扱ガイドライン」があり、それに基づいた園での取り組みを明記して全職員に周知しています。 ・ 性差による固定観念で保育をしていないかなど、職員間は気軽に話し合える関係を築いています。
- 4 保護者との交流・連携 	・ 保護者に対して入園説明会、年3回のクラス懇談会、年1回の父母会総会などで園長や担任が保育の基本方針を具体的に伝えていきます。 ・ 保護者との面談や相談、懇談会での話し合いなどから折に触れて園長や保育士は言葉で伝え、保護者からの話を聞く機会を設け、園の保育方針が理解されているか確認しています。今後は保育の基本方針の理解について、アンケートなど活用してひろく把握することが望まれます。 ・ クラス懇談会は年3回実施しています。できるだけ多くの保護者が参加できるよう、乳児は土曜午前、幼児は金曜夕方に行われ、どちらの日も子どもの保育の希望を受け付け、また夕方は軽食の希望を受け付けています。 ・ 相談の内容が人に聞かれず相談できるよう配慮しています。相談内容は「面談ファイル」に記録され、相談内容によっては全職員で周知して、継続的なフォローが出来るよう配慮しています。 ・ その日の保育の様子はホワイトボードに書いて知らせています。その他、随時「ミニだより」を発行してその日の保育の様子を伝えた

り、壁新聞を掲示したりしています。

- ・ 保護者懇談会ではレジメを用意して、子どもの現在の姿、これからの成長の様子、それに合わせた保育の目的と内容を説明し、保護者からも意見をもらいわかりやすく情報提供を図っています。
- ・ 保護者の活動に要請があれば職員も積極的に参加しています。父母会行事、園と共催の行事は主任が窓口になって開催の手助けをし、職員も参加しています。父母会とは常に話し合い、コミュニケーションをとっています。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・ 園の行事に地域住民を招待して、その交流のなかで施設に対する要望を把握しています。 ・ 子育て支援活動で園舎を開放し、来園した親子の相談にのったり、区が主催する「赤ちゃん教室」に主任とフリー保育士が関わり相談にのったりして地域のニーズを把握しています。 ・ 地域住民向けの「赤ちゃん教室」は月1回開催され、睡眠、事故予防、救急時の対応、赤ちゃん体操などのほか、栄養士が離乳食のことなどを話しています。
- 2 保育園の専門性を活かした相談機能 	・ 区役所に園のパンフレットを配置し、ホームページ等で情報提供しています。一時保育や赤ちゃん教室で保護者の悩みや相談にのっています。 ・ 育児相談は随時受け付けており、定期的には行われていません。今後は定期的に相談日を設けて対応されることが期待されます。 ・ 戸塚区福祉保健センターや医療機関、戸塚地域療育センターなど必要な関係機関・地域の団体等の連絡先を明記したリストは事務室に整備され職員間で共有しています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
- 1 保育園の地域開放・ 地域コミュニティへの 働きかけ 	・ 園のお祭りの寄席に地域の方を招待したり、地域の老人ホームの方を収穫祭に招待したりして、一緒に過ごしています。 ・ 地域のお祭りに積極的に向かい交流を図っています。「ハマロードサポーター」として道路清掃、美化に関する協力の契約を市と交わし、子どもたちと職員で毎月参加しています。 ・ 地域が主催するコンサートやイベントに園舎を開放し、地域ケアプラザや野球チーム、学童保育クラブなどに備品の貸し出しを行い、会場貸し出し申込書・物品貸し出し申込書に記録しています。 ・ 散歩で地域の人と挨拶を交わし、保育活動で買い物に行き、やり取りを楽しみ交流を図っています。 ・ 他の保育園とドッジボールやリレーで交流を図り、地区センターで演奏会や人形劇など他園と文化交流を図っています。 ・ 近隣の八幡宮のお祭りに子どもたちが参加して、たいこ囃子や餅まきを体験しています。
- 2 サービス内容等に関する 情報提供 	・ 園のパンフレットは区役所に配置し、ホームページは随時更新して情報提供をしています。 ・ 利用希望者からの問い合わせには担当者（主任とフリー保育士）を決めて、いつでも対応しています。ホームページの“お知らせ”に見学可能日の表と、問い合わせ番号を示して、利用希望者は見学できることを知らせています。見学は保育に支障がない限り、曜日や時間は見学希望者の都合に応じています。
- 3 ボランティア・実習の 受け入れ 	・ ボランティア受け入れ前にミーティングを行ない主任は職員に説明をしています。 ・ ボランティア受け入れは主任が担当し、受け入れ時の記録が日誌に残っていますが、整備されている状況には至っていません。 ・ 実習生を受け入れるためのマニュアル「保育園ってどんなところ」があり、それに基づいて実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を説明しています。 ・ 主任は実習生を受け入れるにあたり、ミーティングを行ない、職員と子どもたちや保護者に説明をしています。実習生の受け入れは、主任が担当し、受け入れ時の記録を整備しています。 ・ 実習目的に応じて効果的な実習が行われるようプログラムは学校と連携を取って行っています。 ・ 実習終了後、反省会を行ない、園長も出席して意見交換の機会を設けています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
- 1 職員の人材育成 	・ 保育所運営に十分な人材構成であるか常にチェックをしていて、必要な人材の補充は、養成校、ハローワーク、新聞広告、ホームページなどを通して、逐次行っています。 ・ 日常の保育の中で理念にある保育が行われているか 互いに話し合って点検していますが、個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定めることはしていません。今後は個々の職員に期待される役割等に必要とされる能力や知識を、どのように習得するか年間目標を年度当初に設定し、年度末には達成度を評価するようなシステムの策定が期待されます。 ・ 職員の研修ニーズにも配慮し、主任が研修計画を作成しています。職員は園外の研修会に積極的に参加していて、横浜市こども青少年局保育運営課主催研修、私立保育園園長会主催研修、全国保育園団体合同研究集会、法人の姉妹園や湘南学園との交流研修等多岐に渡っています。月1回全職員対象の内部研修会が行われていて、保育の質の向上をめざしています。 ・ 非常勤職員も全員参加の年度末1日研修には必ず参加し、園内外の研修会にも希望すれば参加できます。非常勤職員への指導・連絡は主に主任、フリー保育士、クラスリーダー保育士が行っていて、ミーティングを持ち、業務について情報を伝え、意見交換をしています。
- 2 職員の技術の向上 	・ 職員のモチベーションは高く、研修参加者の報告でよい事例があれば、学習会を開いたり、他施設へ見学に出かけたりしていて、必要に応じて大学等から専門的な講師を招き、指導を受けています。 ・ 保育の振り返りは、子どもの成長や意欲を大切にして、結果だけでなく取り組む過程を重視しています。また、実践を改善したり新たな課題を設定したりして、次の期の計画を作成しています。 ・ 職員は、振り返りを行い期ごとにまとめていますが、個々の職員について、計画的に技術の向上等について自己評価を行う仕組みや保育所の自己評価を計画的に行い公表することはしていないので、年度当初の計画の達成度を評価し、次年度の計画を導くような自己評価の仕組みを作り、公表することが期待されます。

- 3

職員のモチベーションの維持



- ・ 職員には、権限をできる限り委譲し、経験者をクラスリーダーにしたり、得意な技術を活かして行事のプロジェクトの委員としたりするなど、自信と責任を持たせています。園長は、年2回職員面接を行い、職員の満足度・要望などを把握しています。
- ・ 職員のモチベーションを高めるような研修や話し合いは行われていますが、経験・能力や習熟度に応じた役割を期待水準として明記したものは作成されていません。今後は、レベル別の期待水準を作成し、職員の目標を設定することが望まれます。

評価分類	評価の理由（コメント）
- 1 経営における社会的責任 	・ 就業規則の中に倫理規定が記載されていて、全職員に配布し、研修で周知しています。経営、運営状況等の情報は、園のホームページに財務諸表として公開されています。 ・ 他施設での不正不適切な事案を題材とした書籍の読み合わせをするなど不正、不適切な行為を行わないよう啓発しています。 ・ ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みとしては、ゴミの分別をして、ペットボトルや切り開いた牛乳パックを集めたり、日常の保育でも廃材を製作に使用したりしています。節電に配慮して、必要のない時間の照明や調理室の機械等の電源を切るようにしたり、アサガオやゴーヤで、グリーンカーテンを作って、園内でも緑化を推進したりしています。 ・ 環境への取り組みは、個々によく実践されていますが、園としての方針を明文化することが望まれます。
- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・ 職員に配布している「保育課程」に理念・目標・関連資料を記載していて、年度替わりの時期の職員会議等で園長・主任が必ず説明しています。 ・ 常に理念・目標に沿って保育の計画を作成・実践していて、主任・園長はそれを確認し、目標は職員によく浸透されています。 ・ 園と保護者会はよく連絡を取り合い、意見交換をしています。重要な意思決定については、職員及び保護者に目的・決定理由・経過等を十分説明しています。 ・ 日ごろから各種行事、給食等、内容によって、異なる部門の職員が検討委員会を設けて、取り組む仕組みがあります。 ・ リーダーミーティングの中で、リーダーに求められる役割を示し、主任クラスを育成する仕組みがあります。現在、主任に次いでフリー保育士が各種ミーティングに参加し、主任とともに保育の支援もしていて個々の職員の業務状況を把握し、スーパーバイザーとして機能しています。 ・ 主任は個々の職員が良好な状態で仕事に取り組めるように、気配りをしたり助言したりしています。
- 3 効率的な運営 	・ 事業運営に影響のある国の政策、県・市の施策等を、理事会、マスメディアなどから得て、職員に周知しています。重要な情報は横浜市私立園長会や理事会等で議論し、さらに、職員会議でも報告し、話し合っています。 ・ 中長期的な事業の方向性については、主に法人として計画的に取り

組んでいますが、当面の課題として、平成 27 年 4 月に市から移管される横浜市笹下保育園の運営や、大規模修繕工事等があり、園でも論議しています。移管される園との人事交流も予定されるので、それに備える人材育成もしています。



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

■実施期間：2013 年 11 月 1 日～11 月 15 日

■実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

■回収率：配付 100 件、回収 56 件、回収率 56%

※文中の満足度とは「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合を足したものです。

【結果の特徴】

問 1 の「保育目標・保育方針」については、82.1%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えていて、答えたすべての保護者が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。保育目標・保育方針は保護者のきわめて高い賛同を得ていると言えます。

問 2～問 7 の具体的な項目については、ほとんどの項目の満足度が 80%以上です。特に満足度が高かった項目を上から挙げると、

- ・お子さんに関する重要な情報の連絡体制について ・あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか（以上 100%）
- ・クラスの活動や遊びについて ・子どもが戸外遊びを十分しているか ・自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について ・給食の献立内容について ・お子さんが給食を楽しんでいるか ・あなたのお子さんが大切にされているか（以上 98.2%）

などで、その他の項目も日常の保育内容の「遊び」「生活」については、90%以上の満足度のものが多いです。保育園生活の中心であることがらについて、保護者は満足していると言えます。

一方、他の項目に比べると満足度がやや低かったものを挙げると、

- ・外部からの不審者侵入を防ぐ対策について（50.0%）
- ・開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる対応には（75.0%）
- ・年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか（78.6%）

などとなっています。

保育園の総合満足度は、100%（満足 66.1%、どちらかといえば満足 33.9%）で、すべての保護者が保育園に満足しています。

個別意見では、「どの先生も同じ思いで保育をしてくれているのがよく分かる。」「体力作り、食育に力を入れてくださってありがたい。」「自然豊かな地にあるので、散歩が園から公園でなく楽しみながら歩いて行けるなどすばらしい。」「園だよりを楽しみにしている、毎日の連絡ノートでこまめに情報提供がされている。」というような肯定的な意見が多い中、「水回り、手洗い、おもちゃなどを清潔に。」「耐震性や不審者侵入に不安がある。」「保育や行事についての説明は毎回お便りで配られるが、保護者の要望はあまり発信する場がない。」というような声もあります。

園は子どもを大切にして保護者とも良い関係を持ち、保護者は満足して園に子どもを託している様子がうかがえます。今後、保護者の心配や不安がさらに払拭されるような取り組みを、できることから進めていくことが期待されます。

利用者家族アンケート集計結果

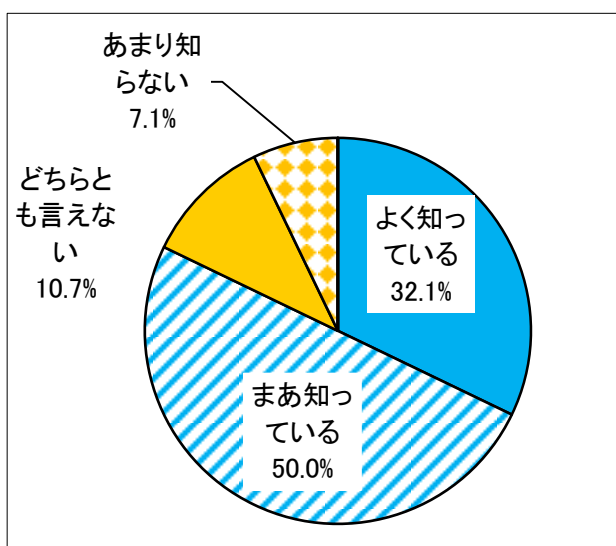
調査期間： 11月1日～11月15日

回収率： 56 % (100件配付、56 件回収)

	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
クラス別回答数	6	13	10	11	12	4	0

(%)

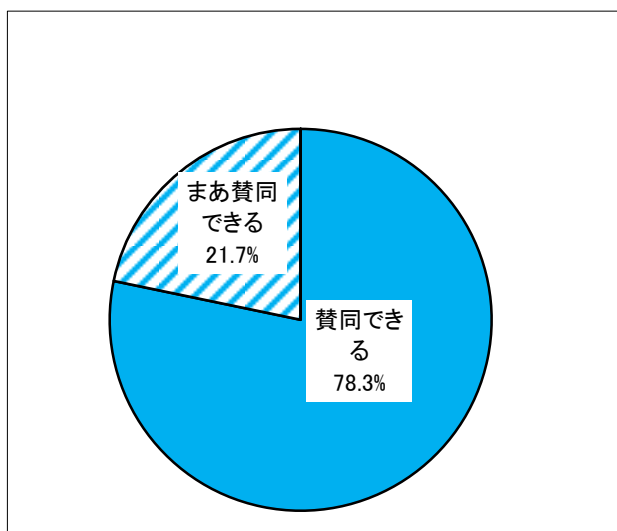
問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	32.1	50.0	10.7	7.1	0.0	0.0



付問1:

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	78.3	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0



問2: 入園する時の状況について

(%)

	満足	どちらか といえ ば満足	どちらか といえ ば不満	不満	その他	無回答
見学の受入について	55.4	32.1	0.0	1.8	8.9	1.8
入園前の見学や説明など、園からの情報提供について	44.6	39.3	3.6	1.8	7.1	3.6
園の目標や方針についての説明には	44.6	41.1	5.4	1.8	3.6	3.6
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育暦などを聞く対応には	50.0	44.6	0.0	1.8	1.8	1.8
保育園での1日の過ごし方についての説明	50.0	44.6	0.0	1.8	1.8	1.8
費用やきまりに関する説明には	37.5	48.2	10.7	0.0	1.8	1.8

問3: 年間の計画について

(%)

	満足	どちらか といえ ば満足	どちらか といえ ば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	32.1	55.4	8.9	0.0	1.8	1.8
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか	26.8	51.8	10.7	1.8	7.1	1.8

問4: 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらか といえ ば満足	どちらか といえ ば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては	73.2	25.0	0.0	0.0	0.0	1.8
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	87.5	10.7	0.0	0.0	0.0	1.8
園のおもちゃや教材については	80.3	14.3	1.8	0.0	1.8	1.8
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	89.3	8.9	0.0	0.0	0.0	1.8
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てているか	71.4	25.0	0.0	0.0	1.8	1.8
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	78.6	17.9	1.8	0.0	0.0	1.8

(%)

「生活」について	満足	どちらか といえ ば満足	どちらか といえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	80.4	17.9	0.0	0.0	0.0	1.8
お子さんが給食を楽しんでいるか	73.2	25.0	0.0	0.0	0.0	1.8
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについて	76.8	17.9	3.6	0.0	0.0	1.8
昼寝や休息がお子さんの状況に応じて対応されているか	58.9	30.4	7.1	0.0	1.8	1.8
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているか	60.7	26.8	1.8	1.8	5.4	3.6
お子さんの体調への気配りにについて	51.8	42.9	1.8	1.8	0.0	1.8
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	42.9	44.6	8.9	0.0	1.8	1.8

問5: 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
施設設備について	41.1	46.4	7.1	3.6	0.0	1.8
お子さんが落ち着いて過ごせる 雰囲気になっているか	58.9	35.7	3.6	0.0	0.0	1.8
外部からの不審者侵入を防ぐ 対策について	12.5	37.5	39.3	7.1	1.8	1.8
感染症の発生状況や注意事 項などの情報提供について	51.8	39.3	3.6	3.6	0.0	1.8

問6: 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談な どによる話し合いの機会につ いて	57.1	39.3	1.8	0.0	0.0	1.8
園だよりや掲示などによる、園 の様子や行事に関する情報提 供について	69.7	26.8	1.8	0.0	0.0	1.8
園の行事の開催日や時間帯 への配慮については	53.6	39.3	3.6	1.8	0.0	1.8
送り迎えの際のお子さんの様 子に関する情報交換について	41.1	53.6	5.4	0.0	0.0	0.0
お子さんに関する重要な情報 の連絡体制について	51.8	48.2	0.0	0.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対 応には	46.4	50.0	3.6	0.0	0.0	0.0
開所時間内であれば柔軟に 対応してくれるなど、残業など で迎えが遅くなる対応には	35.7	39.3	12.5	7.1	3.6	1.8

問7: 職員の対応について

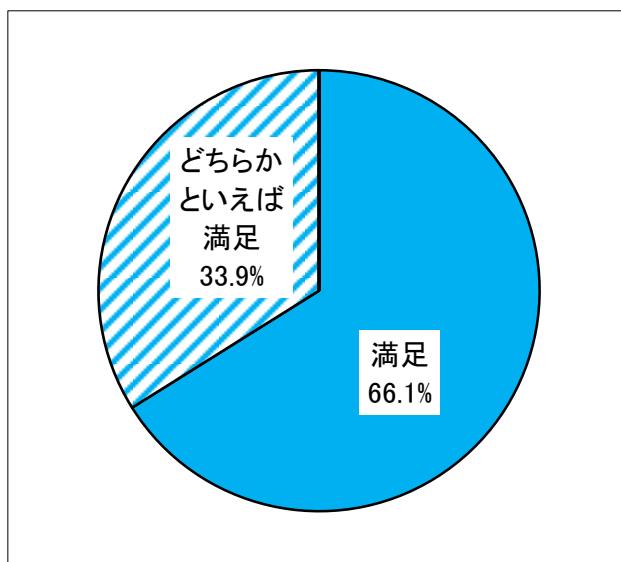
(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にさ れてされているか	69.6	28.6	1.8	0.0	0.0	0.0
あなたのお子さんが保育園生 活を楽しんでいるか	80.4	19.6	0.0	0.0	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや 障害のあるお子さんへの配慮 について	53.5	28.5	1.7	0.0	12.5	3.5
話しやすい雰囲気、態度であ るかどうか	57.1	32.1	7.1	0.0	1.8	1.8
意見や要望への対応について	44.6	48.2	1.8	1.8	0.0	3.6

問8: 総合的な評価

(%)

	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	無回答
総合満足度は	66.1	33.9	0.0	0.0	0.0





利用者本人調査

【実施概要】

■実施日時：2014年1月22日、2014年1月24日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

■0歳児クラス（ひよこ組）

- ・外遊びの支度をして、靴を履かせてもらい園庭に出ます。砂場では保育士と一緒に型に砂を入れ遊んでいます。大型遊具のトンネルの中から這い込み、降りる時は向きを変えてお尻から降りた子どもに、保育士は「上手にできたね」と声をかけ、うまく降りられない子どもには「お馬さんできるかな？」と出来るように促しています。滑り台を逆に登れずにむずかる子どもが靴を脱ぎたいと保育士に訴え、裸足で登れて満足しています。
- ・園庭から帰り、順番に足を洗い、おむつを替えてもらい、気持ちよくなった子どもは畳のコーナーで手遊び歌（ごんべさんの赤ちゃん）や絵本（だるまさんが転んだ）を読んでもらい、集まって熱心に聞いています。保育士が配膳を始め、子どもたちはエプロンをつけて、椅子に座り食事を待ちます。アレルギー除去食の子どもは別のテーブルで、「これから配膳をします」と声を出して色の違うトレーを配膳しています。「いただきます」「スプーン上手だね、おいしいね」子どもはスプーンを上手に使い、時折左手も手伝ってうまく口に運んでいます。保育士は「ごはん集まれましょうか」と手伝いながら、自分で食事が出来るよう配慮しています。離乳食の子は一人、保育士が子どものペースに合わせて介助しています。「もう少し食べられる？」「おかわりする？」と子どもの意思を確認しています。
- ・一人一人パジャマに着替えて午睡の準備です。他の子どもは保育士が手遊び歌やペープサート（だれでしょね）を使った歌を聞いて、楽しそうな声が聞こえ、そこに午睡の準備をしているりす組から3人来て一緒に歌います。

■1歳児クラス（りす組、うさぎ組）

- ・園庭の砂場で一人の女の子が黙々と型に砂を入れて遊んでいます。鉄棒にぶら下がっていた男の子に保育士が近付きおむつを替えに保育室に連れて行き、手早く替えました。自分でズボンをはこうとしますが上手く足が入らず、保育士にズボンの向きを直してもらい手伝ってもらってはくことが出来ました。気持ちよくなった子どもは元気に園庭に出て行きました。
- ・園庭から帰り、足を洗った子どもから順番に保育室の洗面台で手洗いし、紙タオルで手を拭きます。「上手にできたね」と声をかけてもらい、自分で引き出しから服を出して、手伝ってもらいながら着替えます。
- ・紙芝居を見て食事を待ちます。用意ができると、「行ってきます」とひよこ組などに言いながらランチルームに移動します。食堂ではエプロンを付けて座ります。保育士が「どっちどっち？」の手遊びを始め、子どももまねをします。小さく丸めたティッシュが右手、左手、無くなって廊下に飛んで行ったり、天井に飛んで行ったり、子どもの背中に隠れたり楽しそうです。保育士は「おいしいね」「ほら大きな野菜だよ」「小さくしてあげようか」と優しく声掛けしています。手づかみの子ども、フォークを使う子ども、自分のペースで食べています。食べ終わった子どもは部屋の後ろの椅子に座り、順に自分の部屋に戻り

午睡の準備です。

- よく遊び、よく食べた後なので、眠そうな子どももいて、自分から布団に入って毛布をかぶっていた子どももいます。カーテンを引いて明かりを調節して午睡の時間になりました。

■ 2 歳児クラス（うさぎ組、きりん組）

- 子どもたちは登園するとベランダから園庭に出て遊びます。泥団子作りが盛んに行われています。固められず保育士に手伝ってもらう子ども、年上の子どもが砂をかけて固いピカピカの団子を大切にビニールにしまう、そばで見ている子ども、それぞれに楽しんでいます。途中ホールから 5 歳児の和太鼓の練習の音が聞こえてきました。ぶち合わせの太鼓のリズムが揃って、響きもばちさばきも見事なものです。それを外から窓に貼りつくように眺めている子どももいます。
- ホールでは、りす組、うさぎ組、きりん組が一緒にリトミックをします。順番にピアノに合わせて体を動かします。壁際にコの字に座り、自分のクラスが終わると保育士と一緒に戻ります。抜け出したりしても保育士は無理にはせず、視界から抜けそうな時だけ抱っこで連れてきます。一緒にしますが、1 歳児と 2 歳児の年齢差は分かります。きりん組だけ残り、肋木の用意をする間、「おおきなかぶ」の紙芝居を見て待ちます。安全のためマットを敷いて、かなり大きなジャングルジムのような巧技台が出来ました。肋木、はしご、マット、板などで滑り台を作り遊びます。
- 小ホールで食事の準備、紙芝居「へっちゃらかあさん」を見て待ちます。給食を配られた所から食べ始めます。残した子どもに無理強いはしません。お代りする子どもには保育士が対応しています。

■ 3 歳児クラス（らいおん組）

- 園庭では子どもたちが走り回っています。保育士がしっぽをつけてしっぽとりをしています。男児 3 人が戦いごっこをして、キャラクターになりきって悪者を倒しに園庭一杯に走り回り、しばらくすると決めのポーズをしています。子どもたちは半袖の子どもも多く、保育室に入るときも水で手足を洗っています。
- 室内に戻ると二つのグループに分かれ、1 つは大型ブロックで遊びます。乗り物を作っている子どもがいます。もう一つのグループはホールでピアノにあわせ、体育ゲームなどを行っています。ワニ歩き、お尻歩き、おふねがぎっちらこ（二人組を作るよう保育士は支援、いない子どもは保育士が組む）できないと言う子どもがやって「できるじゃん」と励ましています。頭の上のタオルを落とさず歩く、ケンパなど強制はしませんが、いつの間にかやっています。
- 給食準備、まだ当番活動はしていませんが 4 人の子どもたちが手伝います。保育士がテーブルを出し、子どもたちは 4 つ折りにした台ふきんで拭いています。準備ができたところから食べ始めます。「おいしいね」「野菜もしゃきしゃきしている」とみんな良く食べています。メニューによって箸、フォーク、スプーンと子どもの発達に応じて使っています。

■ 4 歳児クラス（ちびぞう組）

- 園庭では自由遊び、大縄跳びをする子ども、泥団子作りをする子ども、バケツの泥水をかき混ぜる子ども、ボールを追いかけて走り回る子ども、みんな元気でほとんどの子どもは長袖 T シャツで上着を着ている子どもはいません。
- 節分に向けて鬼のお面作り、保育士は空き箱や包装紙などの廃材の入った 3 つの箱を用意して、テーブルの周りに各々椅子を持って着席した子どもたちに説明します。好きな箱を選んで鬼のお面の顔にして、

目を切り取り、鼻、口を付ける（描く）。子どもたちはどの箱を使うか、自分の顔に当てて、すぐ作業を始める子ども、迷っている子ども。保育士は穴あけだけ手を貸しますが、ほとんど手を出しません。鋏の持ち方が違う子どもには「こっちだね」と握り方を教えています。子どもたちは本当に自由に作っています。保育士は「これにするの?」「緑の顔だね」とか「このままだとひげが床についちゃうから、もう少し丸めてみる?」と声をかけ、子どもが「できたー」と言うと「かっこいいね」と褒め言葉をかけています。

- ヤッターの日、4 歳児と 3 歳児の異年齢活動では、折り紙、積木、ソフトブロック、おままごとに分かれて遊び、4 歳児が折り紙の折り方を教えるなどリードする様子が見られます。
- テーブルを乗せたワゴンをホールに運び、当番は帽子とエプロンを付け食事の準備です。台拭きでテーブルを拭きます。コップ、スプーンなど給食室から運んできます。一人の運ぶ数が決まっているので何回も運びます。指示はありませんがまじめに当番をしています。

■ 5 歳児クラス（でかそう組）

- みんなで作った地図を持って、お約束（歩くときは地図をみない、見る時は声をかける）を聞いて探検に出発です。どちらの道に行くか相談して「チョコの木」のある方に決まり、狭い山道では保育士が地図をポケットに入れて両手が使えるよう注意します。「木が何本あるかな?」「春に来た時は花畑だったね」二股で分かれた道では 2 グループに分かれ、合流地点では探してくれるように隠れる子どももいます。「おばけの木、怖いね」と話ながら進みます。ドロドロ道で手をついて汚れた子どものために、水道のある場所を地図で確認して向かいます。子どもたちは道の高低差を利用して上ったり下りたり、斜面を転がったりとダイナミックに遊びます。帰り時間が迫り、階段の修理作業をしている所を通らせてもらった時、作業をしている人に子どもの方から「有難うございました」のお礼を言っています。
- 園に到着。手を洗い着替えて、当番により給食の準備をする子ども、午睡の布団を敷く子ども。保育士は布団のサイズにより場所の指示をする事もありますが、ほとんどは子どもに任せています。
- 食べ終わった子どもから片付けて席を離れ、テラスで歯磨きをしています。そして、最後に保育士の膝枕で仕上げ磨きをしてもらいます。太鼓やボール遊びで小学生のような表情だった子どもたちが嬉しそうに仕上げ磨きをしてもらっています。



事業者コメント

福祉サービス第三者評価を受けて（保育分野）

2014年3月19日

社会福祉法人あらぐさ会 わかば保育園

園長 榎本トミ

今年度、わかば保育園も、初めて、第三者評価を受審しました。

受審の際、保護者の皆様には、お忙しい中、いくつかのアンケート項目に、ご協力をいただき提出していただきました。わかば保育園の、質の向上を目指す受審にたくさんのご協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

提出していただいたたくさんの貴重なご意見を真摯にうけとめ、今後のわかば保育園の保育活動に活かしていくよう努めて参ります。

- ・ 職員の自己評価の段階で、課題を見つけ、目標の共有化とともに、解決策まで考え、実行に移すという事もみられました。こうして職員の意欲と努力を高められたことは、子どもたちにとりまして最善を尽くそうとする職員の意欲の現れでした。
- ・ 保育実践の中で、それぞれの理解をより、深く話し合うことができましたこと、日々の保育実践の振り返りができましたこと、研修で培ったことをその話し合いで経験年数に関係なく充実させられたことも、様々な年代でしっかり話し合う事で共有できる保育感も持てましたことも、いい成果だったと思います。
- ・ 理解できていたように思っていたことも、明文化されていなかったり、共有化していなかったりと、曖昧なところをしっかりと、誰がやっても理解できるようにしていくための地図のようなもの（マニュアル）ができたこと、みんなで作り上げようとする姿勢ができましたことは、職員の和や、意欲に繋がりました。
- ・ 常に、どんな時にでも、「わかば保育園の理念に立ち戻れるようにして行こう」と、全体で話し合われたことは、「今、私は、この理念の下で行っているのだ！これでいいのか？」という振り返るところが、職員全体の身体の中で確かめられたということが、当たり前のことなのですが、今一度確かめられたことが、一番大きな収穫だったのではなかったか！と思います。
- ・ このような機会に恵まれ、きめ細やかなところまで、訪問実地調査し報告してくださったよこはま地域福祉研究センターの皆様ありがとうございました。

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>



Yokohama Community development Research center

特定非営利活動法人
**よこはま
地域福祉
研究センター**